

創立 1964年 6月16日
 認証 1964年10月19日
 第2510地区 第11グループ



創立40周年
 2003～2004

The Weekly Report of
函館北ロータリークラブ会報
 Hakodate North R.C.



2003～2004年度
 R.I会長
 ショチサキB、ロサイアへ
 国際ロータリーへのテーマ
『手を貸そう!』

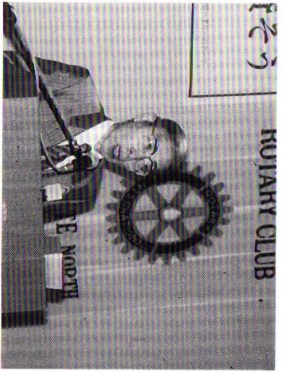
四つのテスト
 ……言行はこれに照らしてから……

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ロータリーとは
 ・ロータリーは、事業および専門職務に携わる人々の世界的奉仕団体です。ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において最高の道徳的基準を守ることを奨励し、世界理解と平和を自覚して促しています。
 ・ロータリーは、世界で最初の奉仕クラブです。最初のロータリー・クラブは、1905年2月23日に、米国イリノイ州シカゴで創立されました。
 ・ロータリークラブは、毎週、例会を開いて、親睦を深め、地域社会や国際社会にとって重要な問題について興味深く有益なプログラムを果してまいります。推薦制度によって入会し、その会費は、推薦制度によって入会し、その会費は、推薦制度は地域社会の横断面となっています。



北村 祐治 会長 テーマ 『YES, I DO!』 さあ、行動しよう!



10月8日卓話 井上 能孝氏

《第1939回例会》 第15号 10月15日(水)

本日のプログラム

卓話 「ステンレス製魔法瓶の開発について」

函館製茶業 取締役社長 里見 泰彦氏

★会長 北村祐治(干尋) ★幹事 柴崎 晃

例会場: 函館 国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
 例会日: 毎週水曜日 12:30～13:30 事務局: 函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

日本不動産株式会社 北海道知事免許 札幌(支)第302号
 建設業許可北海道知事(業)第3143号
 新しい価値を創造する
NISSHO E-RO-TOJISHOJI
 日商興産株式会社
 〒041-0852 北海道函館市緑道2丁目1番3号
 TEL 0138-56-6600 FAX 0138-56-2310
 〒0138-56-6600 TEL 0138-56-3361
 〒0138-56-6600 TEL 0138-56-3361
 ホームページ <http://www.nishokousan.com/> メール info@nishokousan.com
 (広告掲載: 山下 清司 会員)

函館北ロータリークラブはweb(ホームページ)を公開しております。

<http://www.hakodate-north.org/>
 e-mail rotary@hakodate-north.org

2003 - 04年度 函館北ロータリークラブの事業目標

1. 一般会計の健全化—— 創立50周年に向けて
2. 親睦「この方と出会うための1」—— 2003年9月21日創立記念式典・懇親会が最大の「親睦の日」
3. 奉仕—— *地域社会: 市入交通安全(1500名)の奉還(記念事業)
 *ロータリーによる近世代への教育普及・福祉奉仕を自覚する
 *ロータリーによる近世代への教育普及・福祉奉仕を自覚する

4. インターネット・コミュニケーション委員会を設置し、当クラブ以外のクラブとの情報を円滑にい、合わせて会員企業の情報交換に貢献する。
5. 友人の言動に好意を示し、友人の成長を助けて、「手」を貸しましょう。——
 —Land a Hand and Take Action with our heartfelt care
 —for Rotary's international vision!

◎9月21日出席報告

| 会 員 | 44名 | 出席率対象会員 | | 43名 |
|--------|-----|----------|-----------|--------|
| | | 出席規定免除会員 | 出席率規定免除会員 | 1名 |
| 当日出席 | 39名 | 当日欠席 | 4名 | |
| 他クラブ出席 | 0名 | 出席合計 | 39名 | |
| 出席率 | | | | 92.86% |

・テレビオンサービス(例会移動案内)電話26-3170番

次回・10月22日 卓話 「函館市民が断るクリスマスプレゼント」
 JCMメンバー 榎園館産産/バス 取締役社長 岩塚 晃一氏

プログラム

10月1日の記録

◎司 会 北村 祐治 会長 ◎斉 唱 我等の生業、四つのテスト

◎ゲスト 社会福祉法人函館光習会 函館あいの里 林崎 光弘 理事長

◎ピジター 函館R.C. 船瀬裕敏君

★誕生祝 藤田会員(23日)

★結婚祝 渡部会員(5日)、森 会員(9日)、小笠原会員(11日)、増田会員(13日)、
福井会員(14日)、藤田会員(26日)、佐々木会員(26日)

◎会長報告 北村祐治会長

- 台北市東北扶輪社から地震に対するお見舞のFAXが届きました。
- クラテ創立40周年終了の報告と御礼等
- 和歌山城南R.C. 千葉進R.C.から40周年の御礼状が届きました。
- 7月から3ヶ月間の実績及び経過報告

◎委員会報告

- 創立40周年実行委員会 中野 亮 委員長
40周年記念式典、祝賀会は盛会裡に終了することができました。会員の皆様には大変ご苦労様でした。ありがとうございます。
- クラテ奨学会委員会 石橋 輝夫 委員長
前回欠席した函館工業高等学校の梅村さんのお母様に奨学金をお渡ししました。その際受領した近況報告書の報告を致します。

◎幹事報告 柴崎 晃 幹事

- 第2四半期会費案内をいたしましたので今月中にお払込をお願いします。
- 遠藤カバナーエレクトから本事務所を開設致しますとのご案内がありました。
- 国際ロータリー2004年国際大会実行委員会よりパンフレット等が届きましたので皆様に配布致しました。
- 昨年実施されましたG.S.E.の報告書が届きましたので回覧致します。
- 函館R.C.10月2日移動例会 函館五稜報R.C.10日自主休会に変更です。
- 例会終了後理事会を開催致します。
- 長万部R.C.から合同例会の案内がきております。(10月20日16:00～)

③ 家族の痴呆に関する知識と理解は十分とは言えず、相当重篤になるまで治療や介護の必要性に気づかない、あるいは目をそむけたり、放置してしまいがちである。
④ 専門職も吉め、地域の人々の痴呆に対する認識が十分に浸透していない。

○痴呆性高齢者の特性とケアの基本

- 痴呆性高齢者は、記憶障害が進行していく一方で、感情やライドは残存しているため、周りの対応によっては、焦燥感、喪失感、怒り等を感じることもある。
- また、自分の人格が周囲から認められなくなっていくというつらい思いをしているのは、本人自身である。
- こうしたことを踏まえれば、痴呆性高齢者こそ、その人の人格を尊重し、その人らしさを支えることが必要であり、「尊厳の保持」をケアの基本としなければならない。
- また、痴呆性高齢者が環境の変化に適応することがことさら難しいことに配慮し、生活の継続性が尊重されるよう、日常の生活圏を基本としたサービステキを整備していく必要がある。
- さらに、痴呆の症状や進行の状況に対応できる個別サービスのあり方を明らかにし、本人の不安を取り除き、生活の安定と家族の負担の軽減を図っていくなければならない。

○痴呆性高齢者ケアの普遍化

- 痴呆性高齢者ケアに求められる、環境を重視しながら、徹底して本人主体のアプローチを担及することは、すべての高齢者のケアに通じるもの。
- 痴呆性高齢者グループホームにおける「小規模な居住空間、なじみの人間関係、家庭的な雰囲気の中で、住み慣れた地域での生活を継続しながら、ひとりひとりの生活のあり方を支援していく」という方法論は、痴呆性高齢者グループホーム以外でも展開されるべき。
- 今後、痴呆性高齢者がますます多数を占めることを考えれば、身体ケアのみではなく、痴呆性高齢者に対応したケアを標準として位置付けていくことが必要。
- 「小規模・多機能サービステキ拠点」「施設機能の地域展開」「ユニットケアの普及」、痴呆性高齢者に対応したケアを求める観点から産み出されてきたもの。これからの方策の前進がさらに求められるゆえんは、痴呆性高齢者ケアの確立が必要であるからである。

○地域での早期発見、支援の仕組み

- 早期発見も重要、早期に発見し、適切な診断とサービスの利用により、行動障害の緩和が可能な場合が多い。地域での早期発見と専門家に気軽に相談しやすい体制が重要となる。
- そのためには、かかりつけ医等専門職だけでなく、地域住民全体に痴呆に関する正しい知識と理解が浸透することが必要。
- さらに、地域の関係者のネットワークによる支援と連携の仕組みを整備することで、本人や家族の安心を高めていくことが必要である。

(会報担当者：茂木 政雄 委員)